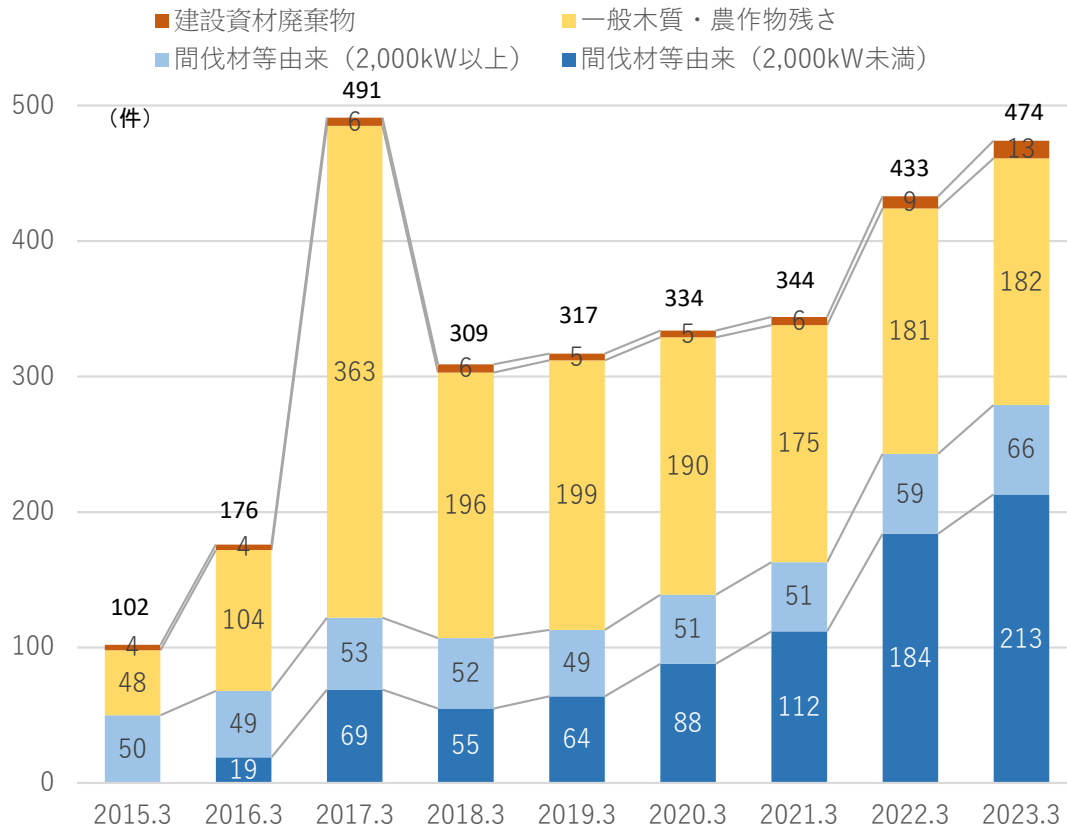


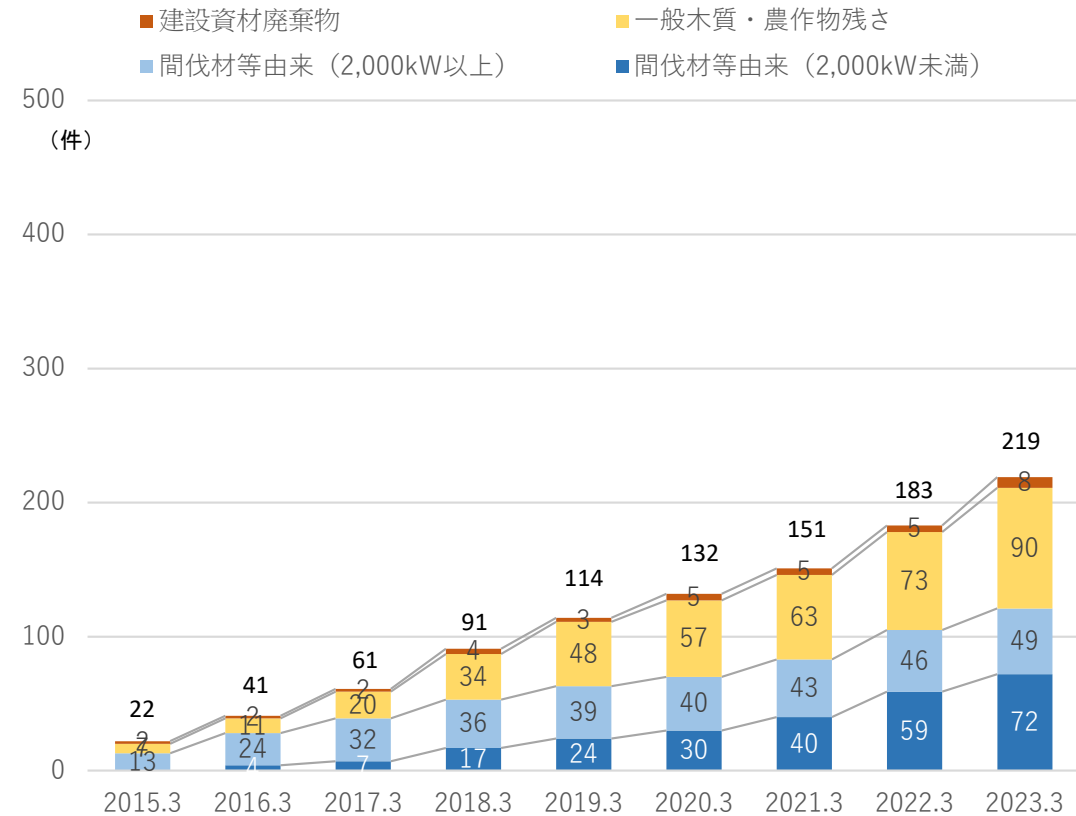
木質バイオマス発電施設のFIT・FIP認定・導入状況

- 全体としては、認定件数、導入件数（稼働件数）ともに増加。
- 特に、小規模な未利用木材区分（間伐材等由来、2,000kW未満）の認定件数の増加ペースが大きい。

木質バイオマス発電施設認定件数



木質バイオマス発電施設導入件数



注1：RPSからの移行認定分を含まない。

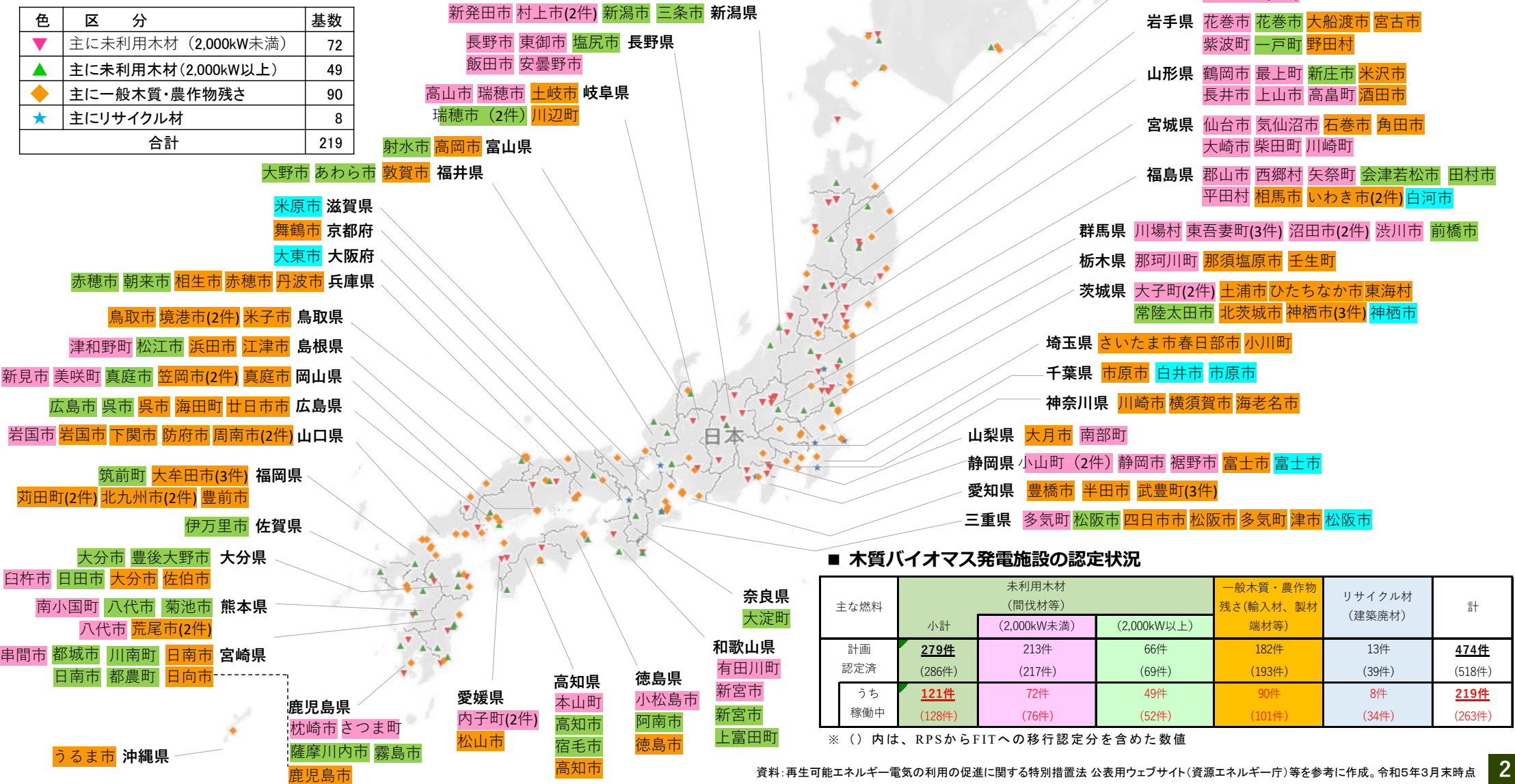
注2：2015.3時点は、間伐材等由来区分の出力規模による区分はなし。

FIT・FIP新規認定を受けた木質バイオマス発電施設の稼働状況

- 令和5年3月末現在、FIT・FIP新規認定を受けた木質バイオマス発電施設は、474か所の認定が有効であり、このうち219か所が稼働。
- 主に未利用木材を使用する木質バイオマス発電施設は、279か所の認定が有効であり、このうち121か所が稼働（令和4年9月末から7か所の増加）。

■ FIT・FIP開始後新規認定を受けた木質バイオマス発電施設の稼働状況

色	区分	基数
▼	主に未利用木材（2,000kW未満）	72
▲	主に未利用木材（2,000kW以上）	49
◆	主に一般木質・農作物残さ	90
★	主にリサイクル材	8
	合計	219



■ 木質バイオマス発電施設の認定状況

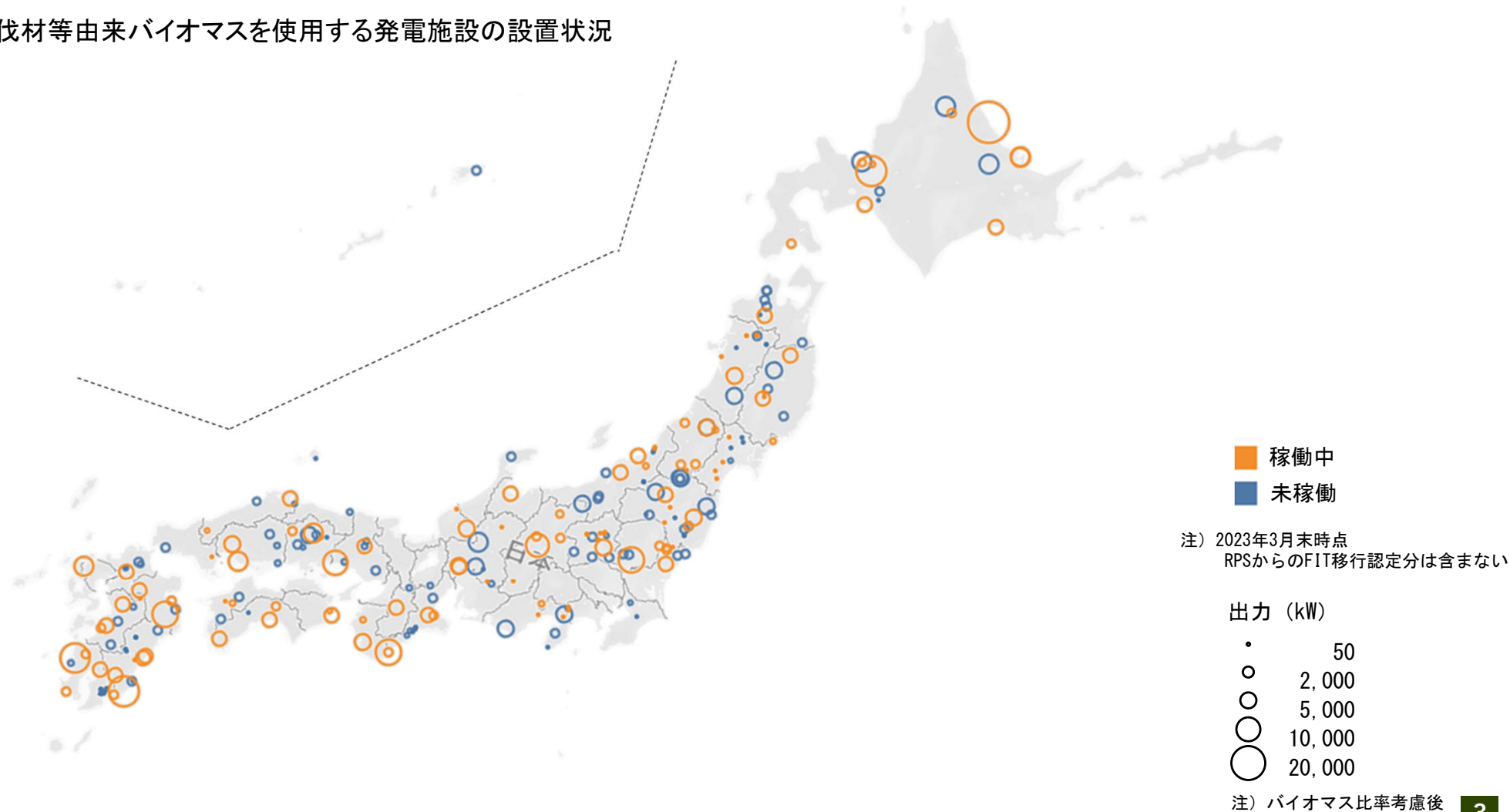
主な燃料	未利用木材 (間伐材等)		一般木質・農作物 残さ(輸入材、製材 端材等)	リサイクル材 (建築廃材)	計
	小計	(2,000kW未満)			
計画	279件	213件	66件	182件	474件
認定済	(286件)	(217件)	(69件)	(193件)	(518件)
うち稼働中	121件	72件	49件	90件	219件
	(128件)	(76件)	(52件)	(101件)	(263件)

※ () 内は、RPSからFITへの移行認定分を含めた数値

木質バイオマス発電施設の稼働見込み(未利用木材区分)

- 主に未利用木材（間伐材等由来）を燃料として利用する発電施設だけを見ても、FIT・FIP認定済みで未稼働のものが158件あり（2023年3月末時点）、これらが全て稼働すると、40道府県で計279件となる。
- 発電施設の稼働増に伴い、国産燃料材の需要も増加する見込み。

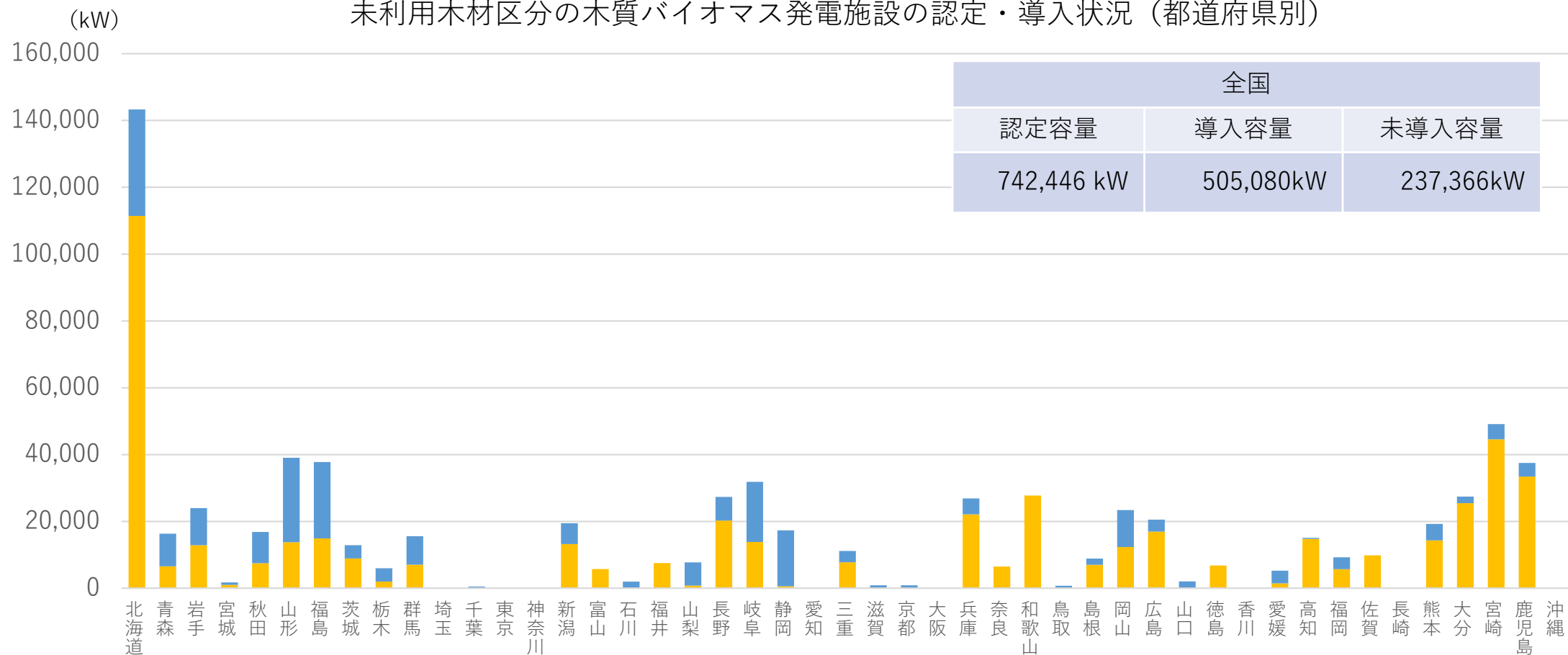
主に間伐材等由来バイオマスを使用する発電施設の設置状況



FIT・FIPの導入状況(未利用木材区分、都道府県別)

○ 今後も、主に未利用木材を使用する木質バイオマス発電施設が全国で稼働する見込み。特に、北海道、岩手、山形、福島、岐阜、静岡、岡山では、10,000kW以上の導入が見込まれている。

未利用木材区分の木質バイオマス発電施設の認定・導入状況(都道府県別)



全国		
認定容量	導入容量	未導入容量
742,446 kW	505,080kW	237,366kW

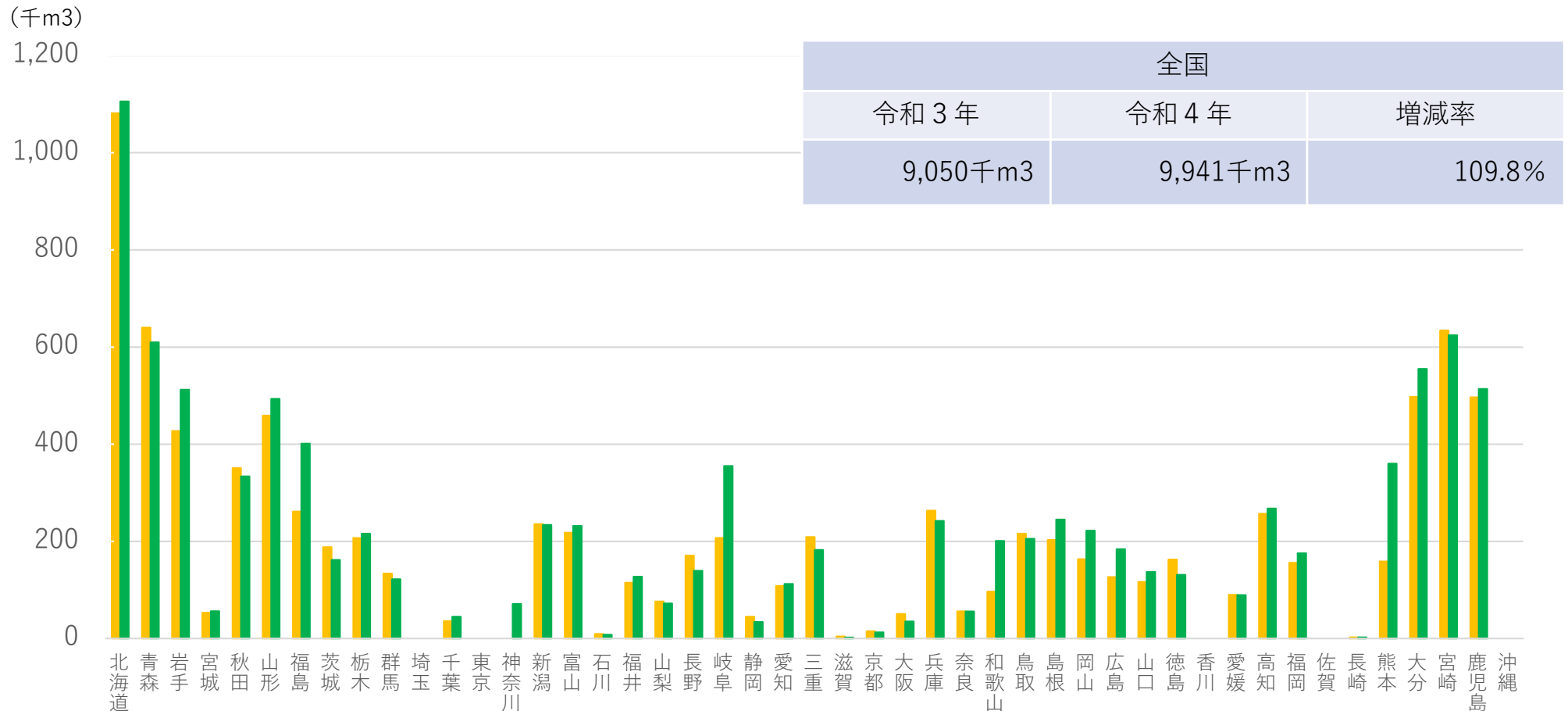
注: RPSからの移行認定分を含まない。

■ 導入容量 ■ 未導入容量

資料:再生可能エネルギー電気の利用の促進に関する特別措置法 公表用ウェブサイト(資源エネルギー庁)を参考に作成。令和5年3月末時点

燃料用チップ(間伐材・林地残材等)の利用量(都道府県別)

○ 令和4年における間伐材・林地残材等を原料とする燃料用チップの利用量は、全国では前年比約10%増加(22都道府県で増加、19県等で減少)。



注: 秘匿処理により、以下の都道府県は0としている。

R3 埼玉、東京、神奈川、香川、佐賀、沖縄

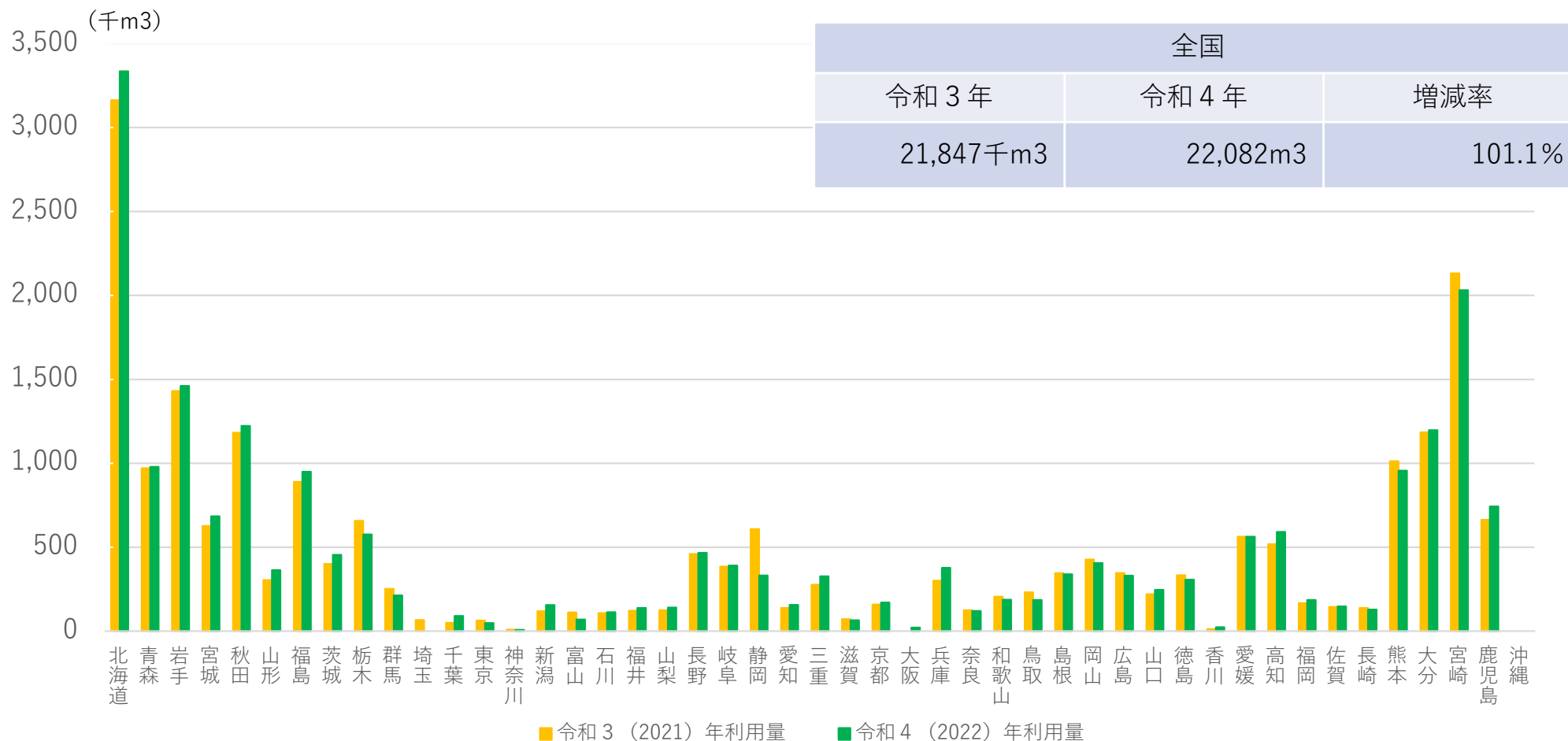
R4 埼玉、東京、香川、佐賀、沖縄

■ 令和3 (2021) 年利用量 ■ 令和4 (2022) 年利用量

資料: 農林水産省「木質バイオマスエネルギー利用動向調査」

用材の素材生産量(都道府県別)

○ 令和4年の素材生産量（製材用材、合板用材、木材チップ用材の計。燃料材は含まない。）は、令和3年度と比較し、全国では約1%増加（26都道府県で増加、17県等で減少）。



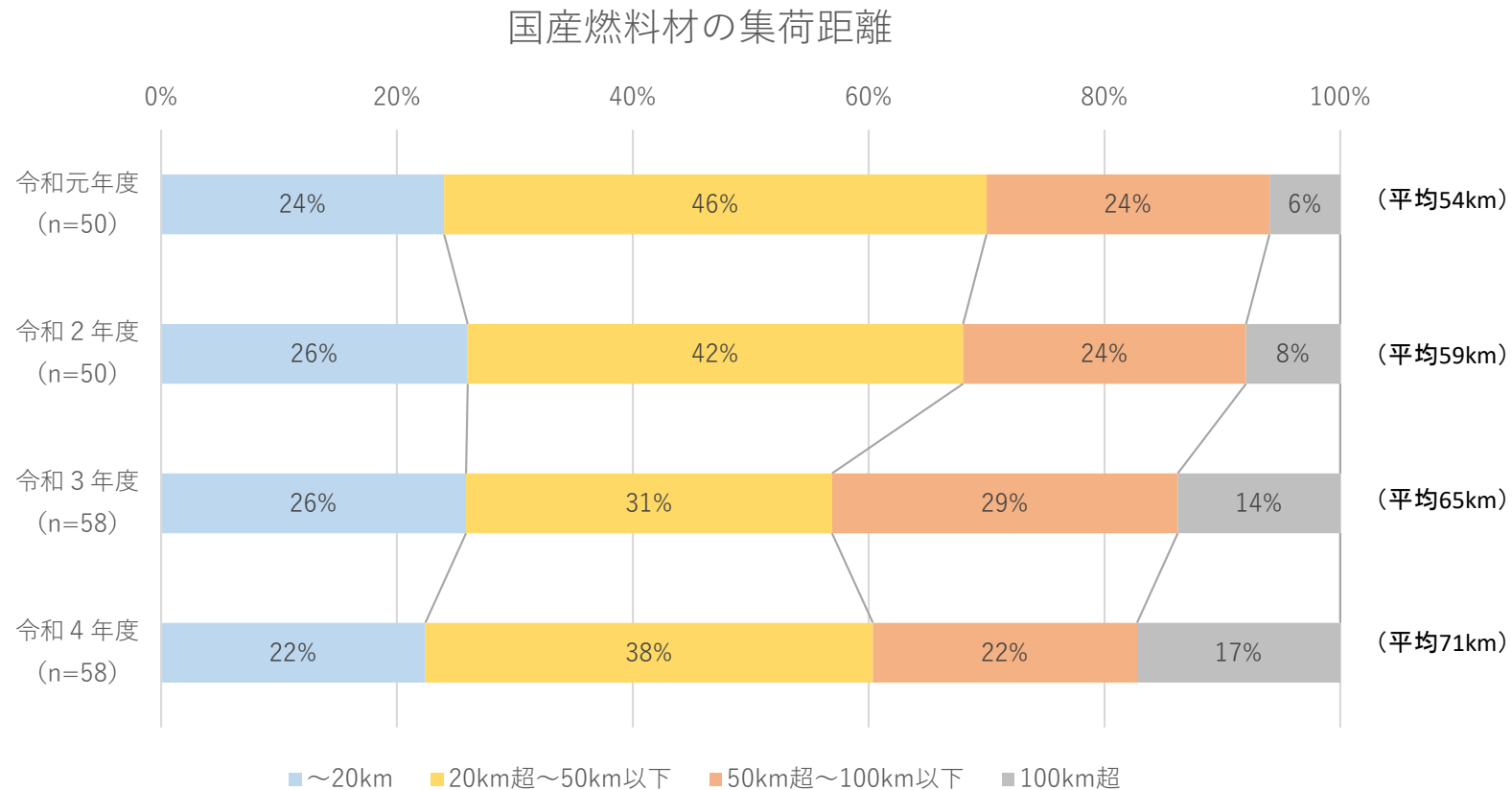
注: 利用実績なしや秘匿処理により、以下の都道府県は0としている。

R3 大阪、沖縄
R4 埼玉、沖縄

資料: 農林水産省「木材統計」

燃料材の集荷範囲

- 国内での燃料材の集荷距離については、100km以下とする発電事業者が約8割（令和4年度）。
- 一方、集荷距離100km超とする発電事業者の割合が増加するなど、平均集荷距離は年々増加する傾向。



出典：(一社)日本木質バイオマスエネルギー協会「木質バイオマス燃料の需給動向調査」(通常集荷距離についての回答結果)